

リレー寄稿

暴走 岸田政権

④

歴史的大転換にモノ申す

中国に自制を、米国には挑発をやめよと求める

米国家安全保障戦略(昨年の10月発表)においても、統合抑止、すなわち、同盟国にも軍事力の強化を促し、米国の抑止に組み込む政策を打ち出している。

今回の日本の3文書改定は、日本の敵基地攻撃能力の保有や年間防衛予算を5年後には従来より2倍とすることが決定されたが、これらに対し米国から強い歡迎の声が上がった。当然である。

力と落ちます米国を借りねば、中国に覇権の地位を奪われかねない米国の切なる要望に対し、日本はストレートに「対米安全保障協定」を提示した。米国の大歓迎は、日本が「戦争を防ぐためには、安心供与」が相手と「戦争してでも守るべき利益」を齎かさないことによる戦争の動機をなくす「安心供与」が不可欠であり、そのためには外交が欠かせない。軍拡を続ける中国に対しては台湾独立を支持しないと伝えて、自制を求める必要がある。同時に、米国へも、挑発をやめよう求めねばならない。

対米外交の力ギは、米軍基地使用についての事前協議だろう。すなわち、米軍が台湾有事に際して在日米軍基地から直接出撃する際には日本との事前協議が必要となるが、この在日米軍基地からの出撃について、必ずしも日本が認めるとは限らないと米側に伝えることが、過度の対立姿勢を抑えよとの米国への働きかけとなるだろう。

新外交代表 猿田佐世



新外交代表 猿田佐世

筋書きが見える陳腐なドラマのようだった。脳会話が終了した。年末、任時から安保政策は同盟国との協力が柱であり、

文書改定で、日本の敵基地攻撃能力の保有や年間防衛予算を5年後には従来より2倍とすることが決定されたが、これらに対し米国から強い歡迎の声が上がった。当然である。

力と落ちます米国を借りねば、中国に覇権の地位を奪われかねない米国の切なる要望に対し、日本はストレートに「対米安全保障協定」を提示した。米国の大歓迎は、日本が「戦争を防ぐためには、安心供与」が相手と「戦争してでも守るべき利益」を齎かさないことによる戦争の動機をなくす「安心供与」が不可欠であり、そのためには外交が欠かせない。軍拡を続ける中国に対しては台湾独立を支持しないと伝えて、自制を求める必要がある。同時に、米国へも、挑発をやめよう求めねばならない。

戦争を防ぐには「安心供与」

一見「かったたるく」見える外交こそ不可欠

忘れてはならないのは、日本一方国では中国とも北朝鮮とも戦争になる理由も可能性もないということである。日本が戦争に巻き込まれるとすれば、唯一、米国の戦略の一部を担うが故に台湾有事に巻き込まれた場合のみである。しかし、台湾有事となれば、日本国民にも甚大な被害が生じる。米軍は在日米軍基地から出撃し、反撃を受ければ民間人にも多くの死傷者が出るだろう。また、その前の時点においてすら、事態が緊迫し、対中経済制裁となった際の市民一人一人の生活が被る

被書についても想像を絶する。米国と日本では地政学的位置も中国との関係も



ロイター

米軍に日本防衛を果たしてもらおうことも3文書改定で盛り込まれている。今回の日本の3文書改定は、日本の敵基地攻撃能力の保有や年間防衛予算を5年後には従来より2倍とすることが決定されたが、これらに対し米国から強い歡迎の声が上がった。当然である。

力と落ちます米国を借りねば、中国に覇権の地位を奪われかねない米国の切なる要望に対し、日本はストレートに「対米安全保障協定」を提示した。米国の大歓迎は、日本が「戦争を防ぐためには、安心供与」が相手と「戦争してでも守るべき利益」を齎かさないことによる戦争の動機をなくす「安心供与」が不可欠であり、そのためには外交が欠かせない。軍拡を続ける中国に対しては台湾独立を支持しないと伝えて、自制を求める必要がある。同時に、米国へも、挑発をやめよう求めねばならない。

対米外交の力ギは、米軍基地使用についての事前協議だろう。すなわち、米軍が台湾有事に際して在日米軍基地から直接出撃する際には日本との事前協議が必要となるが、この在日米軍基地からの出撃について、必ずしも日本が認めるとは限らないと米側に伝えることが、過度の対立姿勢を抑えよとの米国への働きかけとなるだろう。

(次回は来週月曜。作家・中島京子氏)